

パネルディスカッションⅠ 女性と地域社会

司会者：

陳曼麗 台湾女性団体全国連合会理事長

1987年の戒厳令解除後、台湾は民主主義の時代に移行しました。この新たな時代において、自主、自立的思考、人権を基本とした考え方を求めるというのが、女性の自分たちにかかわる主張でした。こうした主張は、地域社会という観点から5つに分けて見ていくことができます。第1は、女性の知的ニーズを満たす、ということです。第2は、女性の行動戦略を策定すること。第3は、地域社会におけるサポート・システムを促進すること。第4は、政策改善の要求。そして第5は、弱者集団の権利の重要性を強く訴えることです。女性は、家庭を切り盛りするのと同じように、地域社会の問題に対処します。私は、成功を勝ち取るための注目すべき処方箋が3つあると思います。1つは、異性に支援と協力を求めること。2つ目は、社会的資源がどこにあるかを知り、その資源を手に入れること。3つ目は、女性にリーダーとなる力を与えることです。女性がリーダーになる能力を備えていることを女性たちに信じてもらうためには、女性自身が自らの才能を発揮し、女性による貢献を証明する必要があります。地域社会は万人のものです。地域社会は人間にとって満足のゆく空間であるばかりでなく、動物たちにとっても快適な空間であり、動物の生きる権利も守られます。生存、生産、生態保護のすべてを考慮することが、持続可能性の真の精神なのです。

パネリスト：

ナディア・サルト マリキナ市社会福祉開発局コンサルタント

「母子にやさしい」地域社会を確立するためには、地域社会を構成している一般の人々、そして地域社会を成り立たせている基本単位である家庭から事を始める必要があります。私どもは、母子の健康を保証すること、そして、母と子の将来を、ひいては国家の将来を守ることを重視する啓蒙的スタンスで母子を教育することにより、母子ともに適切かつ十分な支援と指導を受けられるようにすること、という目標を掲げています。母子双方にメリットのあるプログラムを心がけることで、こうした目標の達成へ向けて大きな一歩を踏み出しました。

リ・ジョンズ 韓国女性環境ネットワーク事務局長

今日の韓国社会は、いわゆる「圧縮された発展」の副作用に苦しんでいます。地域政治と民主主義の拡大、市民社会における論理的なコミュニケーションや議論、適正な競争と報酬、男女平等と人権、環境教育などといった課題に直面しているのです。こうした新たな課題は、市民社会の発展や一般市民一人ひとりの熟考があって初めて対処が可能となります。今回のパネルディスカッションでは、環境教育や女性の指導力育成を通じた地域社会への支援を目的とする、政府機関と非政府機関の協力モデルをご紹介します。女性の指

導力育成があらゆる地域開発プロジェクト（とりわけ、環境持続可能性や子どもの教育に関する一般市民の意識を向上させるプロジェクト）の要であることを、私どもは経験から学んでまいりました。市民社会への女性の参画は地域社会を変えるだけでなく、女性自身の人生にも変化をもたらします。子どもの教育や家事を一手に引き受けている主婦の多くがうつ病や強迫神経症を患っていると報告されています。こうした女性たちに、家族の世話や幸福以上のことを考えさせ、地域社会の発展や繁栄を重んじるようにさせることは、市民社会の成長の基盤となります。女性こそが地域社会の変革を可能にする主要な力なのです。

大里直恵 東京都生活文化スポーツ局 都民生活部 男女平等参画室長

東京では、少子高齢化を背景に、核家族化や一人暮らし高齢者世帯の増加がすすみ、地域社会の衰退が大きな社会問題となっています。

1997年以降、日本では、共働き世帯の数が片働き世帯を上回り、増加し続けています。また、東京を国内の他県と比較すると、女性有業率の水準が低い、家庭内役割分担の柔軟性が低い、社会の多様性寛容度が低い、子育てにおいて家族の支援が受けにくい、男性雇用者の労働時間が長い等の特徴があり、こうした特徴が、女性の地域活動へのかかわり方にさまざまな影響を及ぼしています。

一般的な地域活動として代表的なものは、(1)社会奉仕活動、環境保護・まちづくりなどの活動、(2)PTAの役員・委員としての活動、(3)自治会・婦人会・子ども会などの活動があります。活動の具体的な内容としては、(1)については、高齢者向けのサービスを行うためのボランティアや、資源のリサイクルを推進するための活動、再開発の計画づくりへの参加、(2)では、学校行事、学校を利用した地域活動への協力、(3)では、地域のお祭り、安全対策、行政事業への協力などが挙げられます。

こうした地域活動への女性のかかわり方に目を向けると、一般的に女性の方が多く参加しているが、役職に就いて方針決定や意思決定に参加している女性は多いとはいえません。ある都市（特別区）の最近の調査結果によると、地域団体でリーダーを務める女性がほとんどいない理由について、40%を超える人が「男性がリーダーになるのが社会慣行」であるとし、30%近くの人が「女性自身が責任ある地位に就きたがらない」と考えています。

近年、地域社会が変化して、人々の交流や連帯感が薄れつつある中、男女がともに地域活動に参画し、地域の活性化を図ることで、より生活しやすい地域社会を創っていく必要があります。

東京では、地域の活動にこれまでほとんど関わりをもつてこなかったいわゆる「団塊の世代」の男性が一斉に退職する時期を迎えつつあり、こうした男性の地域社会活動への参加を促進していくことが重要となってくるでしょう。また、子育てや高齢者介護にかかわるコミュニティビジネスに取り組む女性が増えており、こうした活動を支援することによって、社会状況の変化に対応した新たな地域活動への参画を促進していきたいと考えます。

于娟娟 台北 YMCA プログラム・ディレクター

台北 YMCA の使命は、女性ならではの特質を發揮させ、家庭の調和を促進し、社会の変化に順応し、地域社会に貢献し、女性たちを新たな時代にふさわしい存在としていくことです。台北 YMCA は 1949 年の設立以来、「地域生活協会」を通じて休むことなく奉仕活動を実践してまいりました。2 人 1 組の作業チームで「奉仕活動チーム」を組織し、台北地域や近隣の県・市の地域生活協会を運営しています。また、毎年 2 期 15 講座を開講しています。奉仕活動に関しては、地域生活協会が地域の信者と共同で適切な資源を活用して、スピーチ・諸活動・旅行・公共活動への直接間接の参加・種々のプログラムなどをはじめとした、地域の生涯学習を支援しています。こうした活動が、現代的な市民としてのさまざまな知識や能力を女性たちに提供しています。一方、慈善活動としては、チームは毎年、恵まれない団体のための資金集めのパーティを開催し、こうした方面へも具体的な財政援助を行っています。毎年、33 地域の 1,100 世帯に奉仕しています。